



## キリスト・私たちのための死

三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

(マルコによる福音書 15章 34節)

主イエスの十字架上での7つのお言葉のうち最も不思議なのが「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という言葉です。もちろん十字架は、私たちの想像を超える痛みと苦しみに満ちた刑罰ですが、イエス様ともあろう方がこの時なぜ弱音にも聞こえる言葉を口に出されたのでしょうか。神の子で、救い主とされているイエス様がもし父なる神から見捨てられたのだとしたら、イエス様は神の子でも救い主でもなかったのか、…この問いがいま、私たちに突きつけられています。

金曜日の昼の12時になると全地は暗くなり、それが3時まで続きました。そして3時に、主イエスは大声でこの言葉を口に出されました。…それまで、主はたたかっておられたのです。この最後の時、主は心の中で、神に対して絶えず祈りの言葉を注ぎ出しておられ、それが死のまぎわに声となってあらわれました。

主イエスは何を祈られたのでしょうか。主イエスはそれまで人々に神の国の始まりを告げ、悔い改めを勧め、心身の病気に苦しむ人をいやしました。すべて人々の救いのためでした。そのご生涯の集大成が十字架です。それなら、主イエスが人々の救いのために祈らなかったとは考えられないのです。主イエスのご自分が逮捕された時に逃げ出してしまった弟子たちや、ご自分をののしり、侮辱する人々のためにも祈られました。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ 23:34)。人々をそれでも愛しておられたからで、その愛の対象の中に私たちも入っています。その意味で、私たちが主イエ

スを信じることは、私たちが主の十字架によって、すなわち主の十字架上の祈りによって守られていることなのです。主が十字架の上で繰り返し、繰り返し続けられたその祈りが、私たちの救いの力になっているのです。

主イエスは人間の罪に対する神の激しい怒りを、身代わりとなって一身に引き受けられました。神の罰を受けて死ぬことほどの苦しみはありません。罪の支払う報酬は死で(ロマ6:23)、死ということは誰にとってもひとしく神の罰であります。これを罪を犯したことの無い主イエスが引き受けられたのです。

たいへん残念なことですが、私たちは、町を歩いている人がいきなり通り魔に襲われて殺されたといった不条理を耳にすることがあります。犠牲になった人たちは、どうして自分が、と思いがながら死んでいったに違いありません。この世界にある、このような道理に合わないこと、そのいちばんの中心に主イエスの十字架が立っています。

主イエスがすべての人のための罪の身代わりとなって死なれたことは、神のみこころによってなされたことで、主イエスはそれに従って行かれたのですが、主イエスご自身、心のいちばん深いところでは、自分がなぜこの苦しみを受けなければならぬのかわからないほどであったのでしょう。それだから、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という言葉が出たのですし、そこに至る経過を見ずに、イエス様が弱音を吐いたなどと言うことは出来ません。

私たちは主イエスと同じ苦しみを味わう必要はありません。けれどもその場所に心を寄せ、祈る者でありたいのです。イエス様は神に見捨てられたからこそ、私たちの救い主であられます。繰り返し十字架に立ち返り、自分のまごころをそこに注いで行くことが、私たちの人生のたたかいを支えてくれるのです。

(2010年3月28日の讚美礼拝説教より)

牧師 井上 豊